

ふれあい雪谷

平成22年

新年号

通巻第77号



上池上 海老澤 彰江さんの作品



母校の思い出 37 小池小学校吹奏楽クラブ



私の母校の思い出といえば、やはり三年間所属していた吹奏楽クラブです。

小池小学校に入学してまだ間もない運動会で、吹奏楽クラブのマーチングを見たときのことです。その時、その姿にただただ圧倒されて、「カッコイイなあ、私も大きくなったらお姉さん達みたいにやりたいなあ」と感動しました。

私は四年生になり、念願の吹奏楽クラブに入りました。憧れていたパートに、最後の一人としてやっと入ることができました。初めて音階が吹けた時は飛び上がる程嬉しかったこと、また、初めての演奏会で緊張しながらも最後まで吹くことができた時の達成感、普段は厳しい顧問の先生が演奏会後に褒めてくださったこと、どれもキラキラした宝物です。一方で大変だったこと、辛かったこともありました。早起きの苦手な私にとって、毎日あった朝練習は最大の敵でした。そしてもうひとつ、六年生の時のコンクールでソロのパートの所で音を外してしまい、穴があれば入りたい思いをしたことは忘れたくても忘れられません。

吹奏楽クラブでの三年間の泣いたり笑ったり苦しんだり、音楽の楽しさ難しさを知る良い経験になりました。ますますフルートが、そして音楽が大好きになりました。もっと音楽を勉強して、将来は音楽に携わる仕事に就きたいと思っています。私がそうだったように、小さな子供にも大人にも感動を与え、勇気の出るような魔法みたいな音楽を広げていけたらな、と思います。

そんな夢を与えてくれた母校の吹奏楽クラブに、私はとても感謝しているし、クラブに所属していたことを誇りに思っています。
(池の台 五十嵐 里佳)

サークル紹介 46 水彩画・パステル画教室

洗足池図書館二階多目的教室にて、毎月第一第三金曜日、午前十時半から十二時半まで、嶋田講師を迎えて、会員十数名にてご指導をいただいております。

で充実感をあじわい、同好の方からも学ぶことができます。

皆様方と一緒に、風光明媚な池のほとり、有意義なときを過ごしてみませんか。
(小池 大本・山下)
電話 3748・0744
3726・5181



私の健康法 36 和紙絵作りで生き生きと

まもなく九十二歳を迎える私は、二十年くらい前から和紙作りに励んでいます。

色とりどりの紙を台紙に貼りつけ、風景画や静物画を完成させます。

ひとつの作品を作るのに一週間くらいかかりますが、展示会に出品したり家に陳列したりして楽しんでいきます。



(東中 藤田 卯女子)

【編集後記】

皆様、新年明けましておめでとうございます。

この「ふれあい雪谷」は今回で77号を迎えることができました。

平成22年12月に創刊して今年で二十歳になります。皆様の温かいご支援と各自治会の編集委員の方々のお陰でございす。原稿集めなどお疲れ様でございました。

今年も雪谷地区自治会の皆様にとって良い年でありますように。

(東雪 西本頼雄)

【発行】地域力推進雪谷地区委員会

【編集】ふれあい雪谷編集委員会

連絡先 雪谷特別出張所

大田区東雪谷三六二

電話 三七二九一五二七

【発行日】平成二十二年一月一日

通巻第七十七号

自治会の編集委員を、「近野益美」が担当いたします。よろしく願います。

ホームページ

http://koho/nishi/nishi_news/yukigaya/index.html



12歳

「バシン」鉄のぼうが空を切る。「ストライーク」という勢のいいしんぱんのコール。これを聞く度に熱いとう志がこみ上げてくる。ぼくが投手として一番好きなしゅん間だ。今年は、去年惜しくも果たせなかった「優勝」という喜びを、チームのメンバー全員と分かち合い、小学校生活のいい思い出にしたい。
(東中 東 紀進)

私は年中のころからピアノを習っています。毎年1月にピアノの検定があります。今はその課題曲を練習しています。でもまだかんべきではありません。なので本番までにはきれいにひけるようにしたいです。また検定の曲以外でもたくさん練習して、どの曲でもうまくひけるようにしたいです。
(池の台 木所 朋美)

24歳

社会人三年目になり、責任感のある仕事を任せられるようになりました。後輩も増え、4月からまた新入社員が入ってきます。心にゆとりを持って、周りによく目を向けられるようにしていきたいと思います。
(上池上 田中 里奈)

48歳

世の中の変化のスピードが速く、将来への希望よりも不安を強く感じています。どちらかと言うと流行に左右され易い自分ですが、物事を見極める眼を持ち、また、公私のバランスを考え、微力ながらも社会に役立ちたいと思います。そして、これからの人生を楽しむためにも、心と体の健康維持に努めたいと思います。
(東雪 Y・M)

60歳

石川台に生まれ育ち、60年がアット言う間に過ぎました。我が息子達も巣立ってしまい、いつまでも子供達の声身を近で聞きたい思いから、いまだ雪谷スターズに席を置き、5年前からは雪谷中学校のソフトボール部のお手伝いをしています。子供達と関わり、声を聞くことが自分の生きる力となるので、これからも楽しく時には厳しく子供達と接していきたいと思っています。
(石川台 H・T)

今年は寅年、私は還暦、60歳になります。父が58歳で亡くなった時、若造だった私は大層心細かったことを今でも覚えています。父は現在の私よりずっと老成していたように感じられます。これからは、父の分も長生きして、家族と共に有意義な楽しい人生を送りたいと願っています。
(南雪谷 H・S)

72歳

何回となく過ごしてしまった年女。寅年の性質は温厚で正直、又強情な所もありますが、私はそんな自分が大好きです。今年も自分なりに、そして逆境に負けず、精神を強くもって頑張ってゆきたいと思っています。
(希望ヶ丘 F・N)

庚寅の春に因んでおめでたいお話を一つ。ここ笹丸の一角には何と四頭の寅さんが住んでおります。しかも全員同じ年の美人揃い(私も含めて)。アーめでたいナ。寅は新しい状態に変化しようとする状態。寅は春が来て草木が発生する状態と申します。今年も森羅万象に興味津々、前向きに歩いてゆこうと思っています。
(笹丸 T・T)

新成人

二十歳の夢

僕は、高校三年生の時に受験をしようと思い立ったが失敗し、二十歳になる前の一年間を浪人生として過ごした。受験も浪人も、人生について色々考え始めた故の決断だったと思う。2009年の春には第一希望の大学に合格し、今は忙しい大学生活を送っている。

僕は自宅で浪人生活を営んでいたため自由な時間が膨大にあった。勉強について、友人関係について、自分について、どこか特別な場所に所属せずに、物事を考える時間があったことは、後にも先にもこの一年だけかもしれない。そして、浪人生活中に考えていたことは、二十歳になった自分に何がいかに自信を与えている気がする。

自分で言うのも何だが、二十歳は、まだ色々な挑戦をこなす気力に溢れ、失敗を恐れない故に失敗から学ぶことができる、素晴らしい年頃だと思う。遊ぶことも、学ぶことも、考えることも、社会的な通念のみにとらわれず、自由にできるのだ。

僕は「〇〇になりたい」というような具体的な夢を持っていないが、遊んだり、学んだり、考えたりしているうちに、それは自ら現れてくるものだと思っている。だから僕にとって、二十歳としての「今」をそのように生きることが、夢であり目標である。
(上池上 海老澤 圭)

72歳

六回目の年男、昭和13年生まれ、現在の韓国、京城(ソウル)にて生を受けた。幼い頃の第二次大戦のことは皆目不明ですが、昭和19年~20年の前半頃になると、学校の下校時に米軍による攻撃の空襲警報を再三聞かされ、防空頭巾をかぶり避難したものです。当時の先輩諸氏は国防のため「人生わずか25年」を強いられ、心ならずも戦地に向かざるをえない時代でした。現在60~75歳位の我々の世代は、一番良い時代(?)を過ごしているのではないかと、驚異的な敗戦後の復興、好景気の中、違った角度で国のために奉仕してきたと思います。96歳まで?は余生とは思わずに、命を投げ出し国を守っていただいた先輩諸氏に感謝の念を忘れず、健康に留意し、前向きにものごとを考え、次世代の方々に平和の大切さを些少なりとも伝えて行きたいと考えている昨今です。
(小池 T・K)

84歳

私は大正15年(1926年)生まれの寅年です。年女を7回もくぐってきました。太平洋戦争のとき、寅年のために喜ばれたことがありました。出征兵士の家族が白い晒しの布に千個の点を目印に付け、それを通行人が赤い糸で一人一針ずつ縫って結び目を作るのです。戦場に行く兵隊さんが、千針の布をおなかに巻いて戦うことで、銃弾が当たらなくなることでした。知らない人でも、皆、武運長久を祈って縫ってあげていました。「虎は千里行って千里帰る」「虎は子を思うて千里を帰る」ということから、寅年の人だけは自分の歳の数だけ縫うことができます。私は20近くを縫うことができ、喜ばれたのです。皆が少しでも時代の良くなることを祈っていました。こんなに犠牲が多く、先の見えない戦争は、絶対にはいけないと思います。
(笹丸 J・N)

故郷と言える町石川台 (自治会紹介)



石川台地域は、閑静な住宅街が中心をなしている。交通も便利であり、商店や企業の本社などもある住みやすい街である。東急池上線石川台駅があり、線路敷きの土手は起伏に富んだ長区間にわたり、大きな法面を形成している。また、「新編武蔵風土記」によると旧鎌倉街道沿いであり、地内には雪谷行人塚遺跡があると伝えられている。貴重な歴史的遺産のある街石川台、西方向は呑川、北方向は中原街道と広がる地域を自治会の範囲としている。

雪谷石川台の歩みを見ると、昭和5年東京府荏原郡池上町大字雪谷字通り石川部落の世話人4名、池雪小学校後援会委員2名が部落を運営していたが、両高台にも新居住者が増え、現制度を自治会にして親睦を図るべく青年団員を募り、自治会を創立すべく規約、会費等の原案を作成し世話人に提出した。

世話人も大いに共鳴し、直ちに準備に着手する。なお世話人は新居住者有志宅3人を訪問し、趣旨説明をしたところ親睦を図りたいとの意見の一致をみた。

昭和6年5月、雪ヶ谷石川台親交会と称し創立する。その後、昭和16年4月雪ヶ谷石川台町会と改称する。昭和18年2月雪ヶ谷中北町会と改称。昭和19年町会会館建設。昭和20年5月25日未明戦災により消失する。次いで、昭和22年3月31日を持って町会解散を命ぜられる。当時は軍国主義から自由主義へと移行し、消防団以外の全ての団体は解散させられた。ところが、昭和23年4月に日本赤十字社が団体として認められ、趣意書、規約案を作成し準備が始まると、同年6月1日、日本赤十字社奉仕団雪ヶ谷町石川台奉仕団が創設され、昭和29年12月1日雪ヶ谷石川町会へと町を主体としたものに発展、さらに、昭和30年10月1日雪ヶ谷町石川台会と改称。その後雪ヶ谷町石川台自治会となり、現在雪谷石川台自治会となった。

多くの先人が歩み刻んだ歴史は疎かにしてはならないと痛切に感ずる。今その道を切り開いてくれた人々の苦勞を大切に、この町で営む全ての人が自信を持って故郷といえる街にしていきたい。

(雪谷石川台 近藤 忠夫)

短歌

新玉の年の始めに咲き競う
今年も出会う晴れ着姿に

幾年も重ねしわれに戸惑いと
生くる喜びあふれんばかりに

(小池 高橋 久子)

俳句

屠蘇受けし夫に頂く福袋

年歩む留まり居らしホームレス

仏の目情けは人の為ならず

(東中 菅野 哲男)